

安全・品質上の注意	2
・SRS エアバッグ、プリテンショナーシート	
ベルトに関する注意	2
・一般的な注意	2
・無線装置取付けに関する注意	4
本書の見方	5
・概要	5
・用語の定義	5
・単位の定義	5
・記載の内容	5
・構成部品図	6
・故障診断	7
・略語表	10

一般整備情報	11
・コネクター端子の点検	11
・電気系統の点検	12
・コントロールユニット及び電子部品	12
・テストランプによる点検	14
・4WD 車の点検整備上の注意	15
・CONSULT - II	16
・ジャッキ・リフトアップ支持位置	18
・けん引	20
・標準ボルト・ナットの締付トルク	22
・パワーツール使用に関する注意	22
車両識別情報	23
・車台番号打刻位置及びモデルナンバー	
レートなど	23

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

安全・品質上の注意

PF0:00030

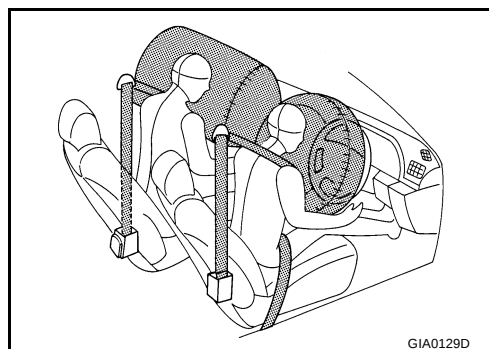
SRS エアバッグ、プリテンショナーシートベルトに関する注意

JAS000ZW

両席（運転席及び助手席）SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムは、併用することにより前面衝突時の運転席及び助手席乗員の頭部への衝撃を緩和させる。

前席 SRS サイドエアバッグシステムは、シートベルト、高強度車体及びエネルギー吸収ドアとの併用により、側面衝突時の前席乗員への頭部及び胸部への衝撃を緩和させる。

SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムは、エアバッグモジュール（ステアリングホイール、インストルメントパネル助手席側、フロントシート側面）、プリテンショナーシートベルト、エアバッグセンサーユニット、スパイラルケーブル、サテライトセンサー、警告灯から構成されている。



安全に整備作業を行うため、「SB シートベルト」及び「SRS SRS エアバッグ」を参照すること。

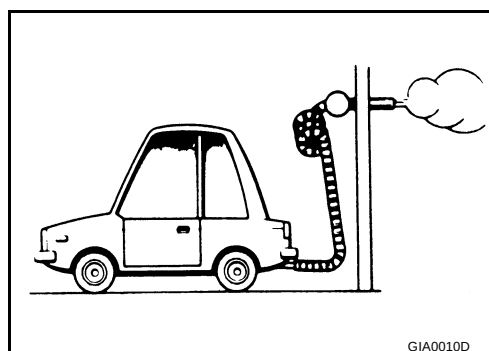
- 警告：**
- SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム関連の構成部品脱着及びハーネス脱着は、キースイッチ OFF で、バッテリーマイナス端子を外してから 3 分以上放置後行うこと。（エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路に蓄えられた電気を放電させるため。）
 - 構成部品の脱着に、エアツール及び電動ツール等は使用しないこと。
 - SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム用のハーネスは、ハンダ等による修理はしないこと。また、ハーネスの噛み込み及び他部品との干渉に十分注意すること。
 - SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルト回路及び単品状態での点検をするときはサーキットテスター等の電気テスターを使用しないこと。（テスターの微電流による作動防止）
 - エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトのコネクターに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。（静電気による作動防止）
 - SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトには、識別として黄色のハーネスコネクターを使用し、他のハーネスとの区別をしている。
 - 安全に整備作業を行うため、「SB シートベルト」及び「SRS SRS エアバッグ」を参照すること。

一般的な注意

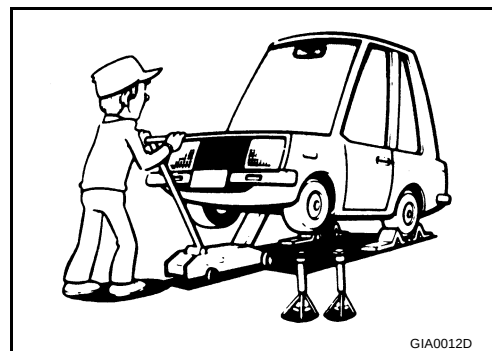
JAS000ZX

安全な作業

- 排気ダクトのない換気状態の悪い作業場では長時間エンジンを運転しないこと。
- 作業場は換気を良くし、可燃物を置かないこと。ガソリンなどの可燃物や危険物を取り扱うときは特に注意すること。
- オイル交換後の廃油、部品洗浄油等は、法令、条令などで定められた方法により処理すること。
- 高温となる箇所、回転部、しゅう動部を作業する場合は火傷や怪我に注意すること。



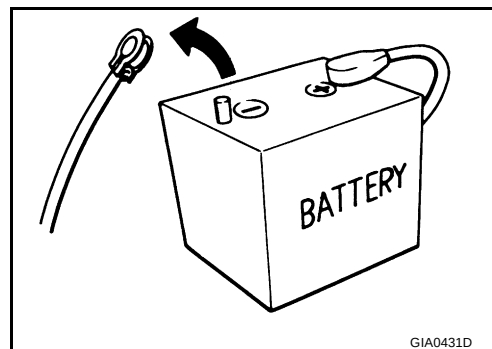
- 車両をジャッキアップした状態で作業せず、所定の位置をリジッドラックで支えてから作業すること。
- リフトアップするときは、所定の位置で支え、安全装置をかけること。
- エンジン、サスペンション等の重量物を取り外すときは、車両を含めバランスを失って落とさないように注意すること。



GIA0012D

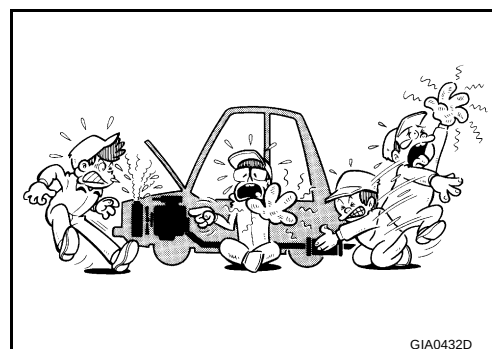
- バッテリー電源を必要としない修理作業を行うときは、作業を始める前にキースイッチを OFF にし、バッテリーのマイナス端子を外すこと。

注意： バッテリー端子を外すと、ラジオ及び各コントロールユニット等で記憶されているメモリーが消去される。



GIA0431D

- エンジン停止直後はやけどをするので、高温になった金属部品に触れない様注意すること。また、エンジンが高温のときは、ラジエターキャップなど冷却水系の部品を外さないこと。
- 安全で効率の良い修理作業を行うため、指定されている場合は適切な汎用工具、又は特殊工具を使用すること。
- 燃料タンクが一杯になり、給油ノズルの自動弁が閉じた時は、無理に燃料の充填を続けないこと。燃料が溢れて飛び散り、火災の原因となる。



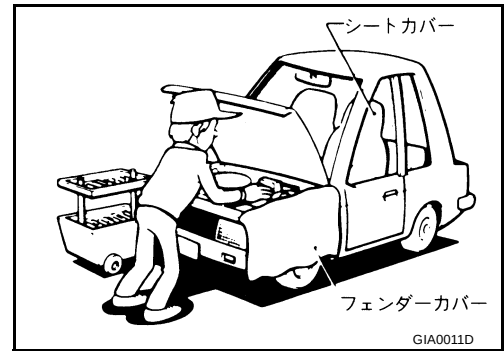
GIA0432D

正確な作業

- 故障現象を十分把握した上で診断し、効率的な作業を行うこと。
- 取り外し、分解をする場合、あらかじめ正規の組付状態を確認しておくこと。必要に応じて機能に影響のない所に合いマークを付けること。
- オイルシール、ガスケット、パッキン、O リング、ロックワッシャー、コッターピン、セルフロックナットなどを外した場合、その項の指示（再使用不可部品等）に従うこと。
- テーパーローラーベアリング、ニードルベアリングはインナーレースとアウターレースをセットで交換すること。
- 取り外した部品は混同しないよう順序よく整理しておくこと。
- 分解した部品は、点検や組み付ける前に清掃、洗浄作業をすること。
- 部品を交換する場合は、日産純正部品を使用すること。
- 給油脂及びシーリング剤等は指定のものを使用すること。
- 圧力のかかっている配管、ホース類を取り外すときは、圧力を除去すること。
- 燃料、オイル、冷却水、排気、バキューム系統を修理したときは、漏れ点検を確実にすること。

車両の保護

- 車を汚したり傷つけないようフェンダーカバー、シートカバー、ハンドルカバー、紙マット等を使用すること。



無線装置取付けに関する注意

JAS000ZY

業務用及びアマチュア無線又は移動電話を取り付けるとき、取付位置により電子制御システムに影響を及ぼす可能性があるため下記を確認する。

- アンテナは ECCS コントロールユニットから出来るだけ遠くにすること。
- アンテナフィーダー線はコントロールユニットハーネスから 20cm 以上離すこと。
- 電波障害をなくすためにアンテナ及びフィーダー線を調整すること。
- 車のラジオのアースを確かめること。

本書の見方 概要

PFP:00008

JAS000ZZ

本編は「脱着、分解、組み付け、点検、調整」及び「故障診断」についての読み取り方を説明したものである。

用語の定義

JAS00100

- 警告： 守らないと生命の危険、又は重大な障害につながる恐れのある事項及び作業要領
- 注意： 守らないと障害や事故、又は車両や構成部品の損傷につながる恐れのある事項及び作業要領で、特に注意すべき事項
- 参考： 作業を容易にするための補足説明
- 基準値： 点検、調整時の許容範囲
- 限度値： 点検、調整時に超えてはならない最高値、又は最低値

単位の定義

JAS00101

本書で使用している締付トルク、圧力等の数値は最初に「SI 単位（国際単位）」で記載し、次の { } 内に「メートル単位」を併記してある。

例) 締付トルク： 59 ～ 78 N・m {6.0 ～ 8.0 kg・m}
SI 単位 {メートル単位}

主な切り替え単位

量	SI 単位	従来単位	SI 単位への切換係数
加速度	m/s ²	G	9.80665
トルク、モーメント	N・m	kgf・m	9.80665
力	N	kgf	9.80665
圧力	MPa	kgf/cm ²	0.0980665
	kPa	mmHg	0.133322
仕事率・動力効率	kW	PS	0.735499
	W	kcal/h	1.16279
体積	cm ³	cc	1
バネ定数	N/mm	kgf/mm	9.80665

記載の内容

JAS00102

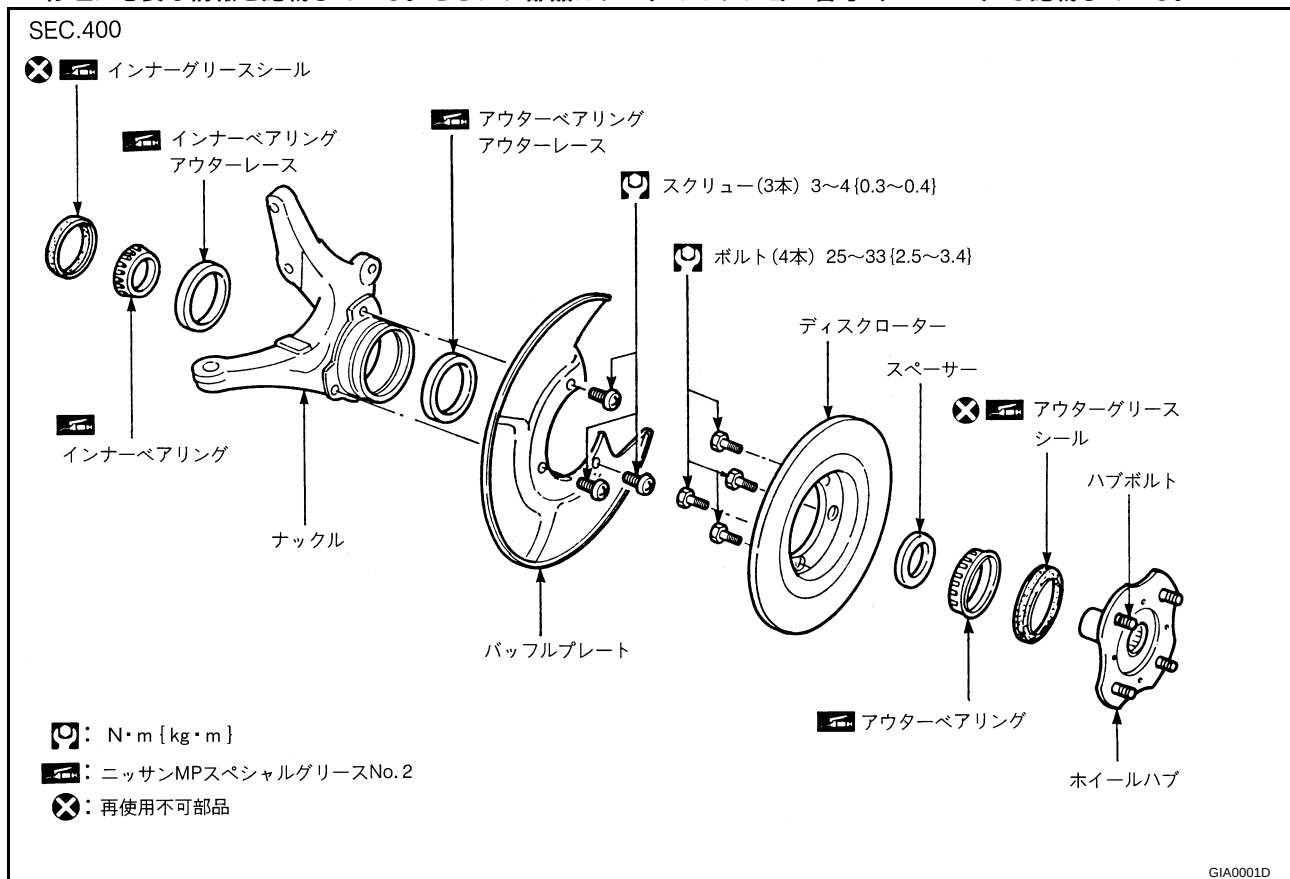
- 注意事項 各編の最初にその編独自の注意事項について記載する。
- 準備品 各編の最初と故障診断項目の最初に、作業前に準備すべき特殊工具、計器類について記載している。ただし、整備工場に常備されていると思われる一般の工具については省略してある。
- 説明文 適切な作業を行うための作業方法、留意点、特殊工具、各種整備情報について記載してある。

注意： 目視点検及び取外部品の清掃、洗浄は原則として記載を省略してあるが、実作業においては実施すること。

構成部品図

JAS00103

構成部品図（図を参照）には脱着、分解、組立作業において必要な締付トルク、給油脂箇所、再使用不可部品、及び修理に必要な情報を記載している。さらに、部品カタログのセクション番号（SEC.000）も記載している。



構成部品図内で使用されている記号一覧

記 号	意 味	記 号	意 味
	トルク管理が必要な部位と規定トルク △~△N・m (○~○kg・m) の場合、 基準トルクは中央値		再使用不可部品
	油脂の塗布を必要とする部位と指定油脂		ワセリンの塗布を必要とする部位
	潤滑剤の塗布を必要とする部位		選択して使用する部品
	シーリング剤の塗布を必要とする部位		調整して使用する部品
	目視点検を必要とする部位		

GIA0433D

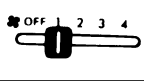
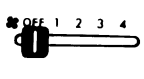
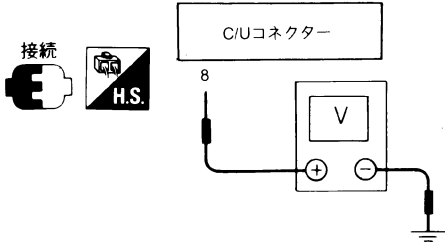
故障診断

JAS00104

- 注意：**故障診断手順は故障原因を効率よく発見する手順を示している。診断を実施するときは、下記内容に留意すること。
- 故障診断を実施する前に、“基本点検”、“現象別故障診断早見表”、“診断フロー”を読むこと。
 - 修理後、不具合が完全になくなったか確認すること。
 - 部品やハーネスコネクタの位置については、各セクションの“構成部品取付位置”を参照すること。
 - 簡易点検には回路図を活用する。回路の導通をサブハーネスを含めて詳細に点検するときは、配線図集を見てコネクタを識別し、ハーネスのレイアウトを確認すること。
 - 回路の導通を点検するときはキースイッチを必ず OFF にすること。
 - コネクタで電圧を点検するときは、バッテリー電圧を事前に測定しておくこと。
 - 診断や点検を終了したあと、ハーネスコネクタをすべて元通り接続したか確認すること。

GI
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L

本書の見方

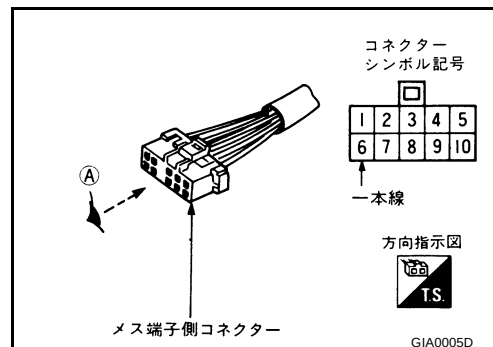
記 号	説 明	記 号	説 明
 非接続	ハーネスコネクタを分離後に点検	 電流レンジで点検	
 接続	ハーネスコネクタを接続後に点検	 CONSULT を使った手順	
 キー SW にキーを差し込む		 CONSULT を使わない手順	
 キー SW からキーを抜く		 A/C SW を ON にする	
 キー SW を OFF にする		 A/C SW を OFF にする	
 キー SW を ON にする		 ファン SW を ON にする	
 キー SW を START にする		 ファン SW を OFF にする	
 キー SW を OFF から ACC にする		 バッテリー電源に直結する	
 キー SW を ACC から OFF にする		 運転状態	
 キー SW を OFF から ON にする		 バッテリー○端子を外す	
 キー SW を ON から OFF にする		 ブレーキペダルを踏む	
 エンジン始動禁止、又はエンジン停止状態 で点検		 ブレーキペダルを離す	
 エンジン始動、又はエンジン回転状態で 点検		 アクセルペダルを踏む	
 パーキングブレーキを効かせる		 アクセルペダルを離す	
 パーキングブレーキを解除する		ECCS C/U 等の端子数の多いコネクタ 端子を示す。 	
 エンジン十分に暖機後、点検			
 電圧レンジで点検			
 抵抗レンジで点検			

GIA0004D

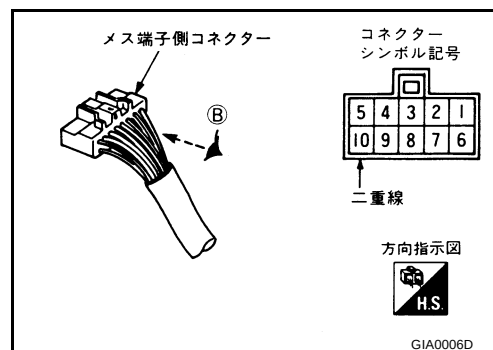
ハーネスコネクタの記号

メス端子側コネクタの場合

- A 方向（端子側）からハーネスコネクタを見た場合は、コネクタ記号の外枠を 1 本線で表してある。さらに、方向指示記号として白抜き文字で TS（ターミナルサイド）と表示してある。

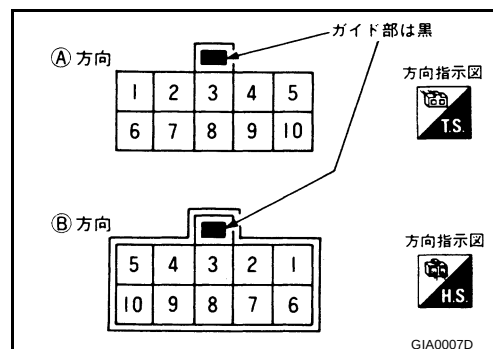


- B 方向（ハーネス側）からハーネスコネクタを見た場合は、コネクタ記号の外枠を二重線で表してある。さらに、方向指示記号として白抜き文字で HS（ハーネスサイド）と表示してある。
- A 方向、又は B 方向から見たコネクタ記号の端子配列は、見た方向をそのまま表示しており、A 方向と B 方向では逆になる。



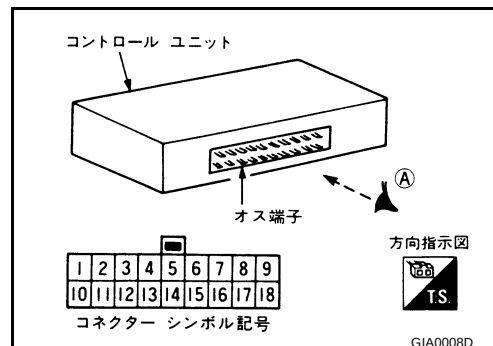
オス端子側コネクタの場合

メス端子側コネクタの表示と同じであるが、メス端子と区別するためオス端子コネクタガイド部を黒く塗りつぶしてある。



コントロールユニット等のユニット単体の場合

コントロールユニット単体の場合は、A 方向のみとなるため図の様に表示する。



本書の見方

略語表

JAS00105

略語	説明	略語	説明
A/C	エアコンディショナー	IGN	イグニッション
A/T	オートマチックトランスミッション	ILL	イルミネーション
ABS	アンチロックブレーキシステム	INT	インターク
ACC	アクセサリー	IPDM	インテリジェントパワーディストリビューションモジュール
ADS	アクティブダンパーサスペンション	L/B	リーンバーン
ALT	オルタネーター	LH	左
ASCD	オートスピードコントロールデバイス	L.S.V	ロードセンシングバルブ
ASSY	アッセンブリー	L/U	ロックアップ
AV	オーディオビジュアル	LED	発光ダイオード
BAT	バッテリー	LLC	ロングライフクーラント
BC バルブ	ブーストコントロールバルブ	LSD	リミテッドスリップデフ
BCM	ボディコントロールモジュール	M/T	マニュアルトランスミッション
C/B	サーキットブレーカー	NAVI	ナビゲーション
C/P	クランクプーリー	O/D	オーバードライブ
C/U	コントロールユニット	OHC	オーバーヘッドカムシャフト
CD	コンパクトディスク	OHV	オーバーヘッドバルブ
CVTC	コンティニューアスバルブタイミングコントロール	OS	オーバーサイズ
Cyl	シリンダー	P/S	パワーステアリング
DOHC	ダブルオーバーヘッドカムシャフト	P/W	パワーウィンドー
DSP	デジタルシグナルプロセッサ	PBR	ポテンショバランスレジスター
ECCS	エレクトロニックコンセントレーテッドコントロールシステム	PTC	ポテンショテンプコントロール
E/R	エンジンルーム	PTO	パワーテイクオフ
EGR	エキゾーストガスリサーキュレーション	RH	右
ELR	エマージェンシーロックングリトラクター	RR	後
ENG	エンジン	S/V	ソレノイドバルブ
eVTC	エレクトロニックバルブタイミングコントロール	SAS	スローアジャストスクリュー
EXH	エキゾースト	SMJ	スーパーマルチジャンクション
F/L	フュージブルリンク	SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
FICD	ファーストアイドルコントロールデバイス	TAS	スロットルアジャストスクリュー
FPCM	フューエルポンプコントロールモジュール	TCS	トラクションコントロールシステム
FR	前	TCU	タイムコントロールユニット
GPS	グローバルポジショニングシステム	Tr	トランジスター
H/B	ハッチバック	TV バルブ	サーマルバキュームバルブ
H/T	ハードトップ	US	アンダーサイズ
HEC	ハイブリッドエレクトリックコントロールユニット	VENT	ベンチレーション
I/P	アイドラプーリー	VTC	バルブタイミングコントロール
IAA	アイドルオーギジアリーエアユニット	VVT バルブ	ベンチュリーバキュームトランスジューサーバルブ
IAS	アイドルアジャストスクリュー	W/P	ウオーターポンプ

一般整備情報

PF0:00009

コネクタ端子の点検

JAS00106

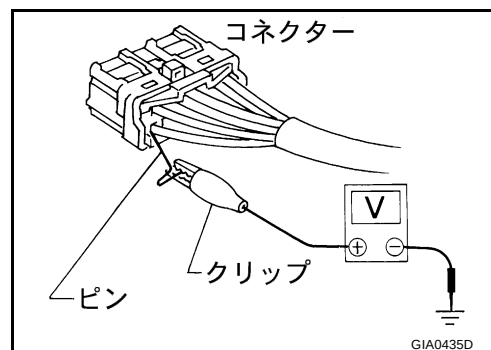
コネクタの点検要領

回路点検時に不適切にコネクタの点検を行うとコネクタの損傷や接続不良をおこす。電圧計などのプローブでは、コネクタに正確に差し込むことができない恐れがあるため、下記の要領に従いワニ口クリップと“T”ピンを使って正しく点検すること。

ハーネスサイドからの点検

防水タイプでない標準のコネクタの場合は、“T”ピンを使ってハーネスサイドから差し込んで点検する。

- 注意：**
- ECCS C/U のようなカバーのあるコネクタの場合は、点検の前にカバーを外すこと。
 - 防水タイプのコネクタの場合は、シールを傷める恐れがあるためハーネスサイドからの点検は行わないこと。

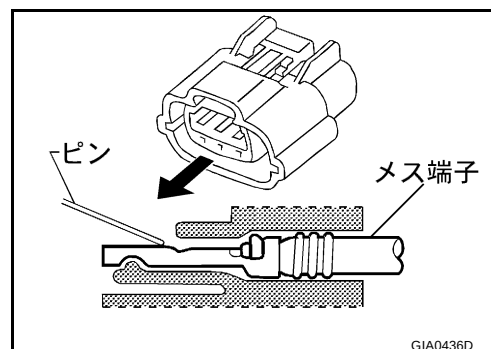


ターミナルサイドからの点検

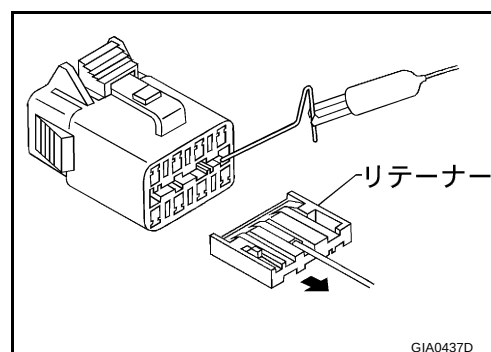
メス端子

- 各メス端子には、中に小さな段差があるので、その段差に沿って“T”ピンを差し込んで点検する。

注意：メス端子には同じタイプのオス端子以外のものは差し込まないこと。



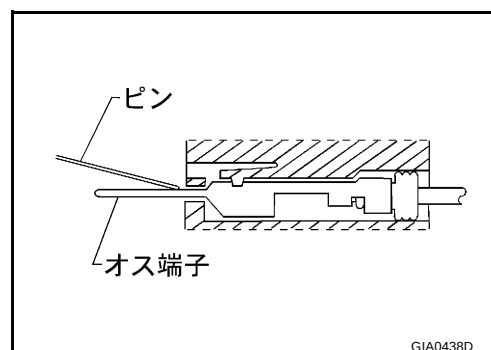
- 段差を持たないメス端子の場合は、リテーナーを外してから点検する。



オス端子

各オス端子表面に“T”ピンを当てて点検する。

注意：端子を曲げないこと。

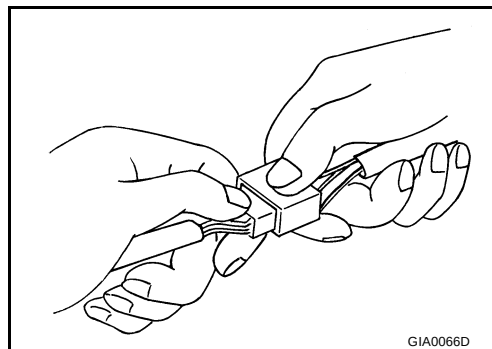


電気系統の点検

JAS00107

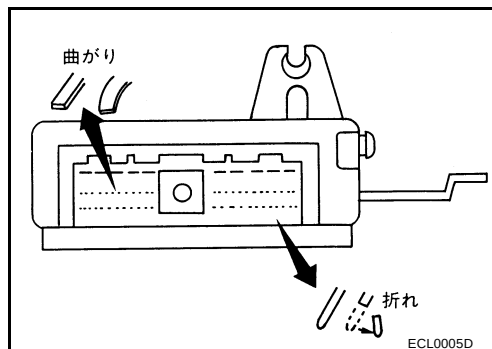
概要

- 故障現象が明らかに電気系統に起因すると推察される場合は、ヒューズ及びヒューズブルリンクの溶断、コネクタ付近の断線、端子抜け、かん合不良などを点検し、故障診断を行うこと。
- ヒューズ及びヒューズブルリンクが溶断した場合は、溶断した原因を調べ修復後、必ず指定容量のヒューズ及びヒューズブルリンクに交換すること。
- コネクタの取り外しは、コネクタ本体をつかんでこじったり無理な力を加えないこと。
- ハーネスは引っ張らないこと。
- ロックタイプの取り外しは、コネクタのロック部を外して、コネクタ本体をつかんで取り外すこと。



GIA0066D

- コネクタの取り付けは、端子の曲がり及び破損がないことを確認して、確実に接続すること。
- ロックタイプの取り付けは、コネクタが確実にロックするまで差し込むこと。
- 部品取り付けの際、ハーネスの突っ張り、かみ込みがないように取り付けること。



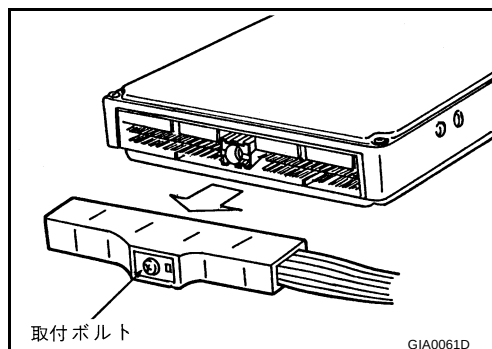
ECL0005D

コントロールユニット及び電子部品

JAS00108

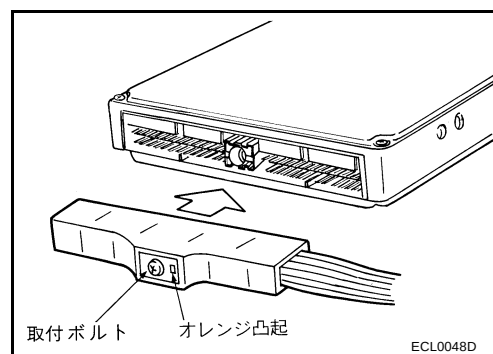
取り扱い上の注意

- バッテリーの逆接続は、絶対に行わないこと。
- 車両により指定された部品以外は装着してはならない。
- コントロールユニットを交換する前にコントロールユニットの入出力点検と構成部品の機能点検を確認すること。
- コネクタの取り外しは、こじったり無理な力を加えないこと。
- ボルトでの締付タイプの取り外しは、コネクタの取付ビスを緩めてコネクタ本体をつかんで取り外すこと。

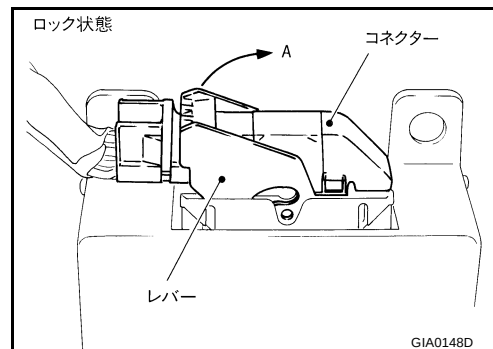


GIA0061D

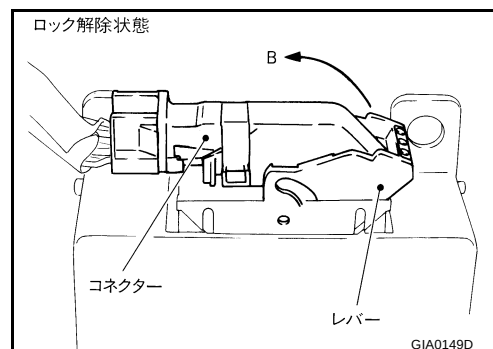
- コネクターの取り付けは、端子の曲がり及び破損がないことを確認して、確実に接続すること。ボルトでの締付タイプの取り付けは、コネクターの着色突起が面一になるまで取付ビスを回して確実に固定すること。



- レバー式ロックタイプの取り外しは、レバーを図矢印 A 方向に起し、コネクタを取り外すこと。



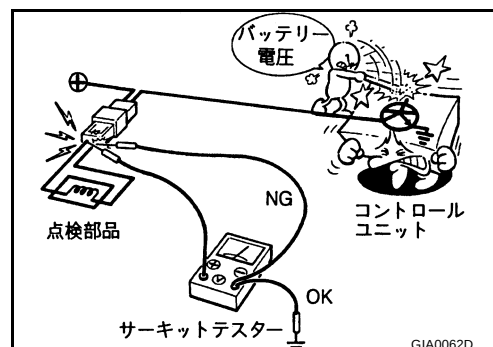
- レバー式ロックタイプの取り付けは、レバーを図矢印 B 方向に倒し、カチッと音がするまで押して取り付けること。



- 落下させたり、叩いたり強い衝撃を与えないこと。
- コントロールユニットは、急激な温度変化による水滴の付着や雨滴、水はねなどが掛からないように注意すること。もし、水滴が付着した場合、十分乾燥してから車両に装着すること。
- 油分がコントロールユニットコネクタに付着しないように注意すること。
- 揮発油によるコントロールユニット洗浄は避けること。
- コントロールユニットは、上下のカバーなど分解はしないこと。



- サーキットテスターで測定するときのテスト棒の位置は、近接して行うとテスト棒同士が接触しやすく、接触すると回路がショートし、バッテリー電圧がコントロールユニットにかかりコントロールユニット内のパワートランジスタが損傷することがあるため、テスト棒間を極力離れた測定方法を取る。
- コントロールユニットの入出力信号点検時には指定のチェックアダプターを使用すること。

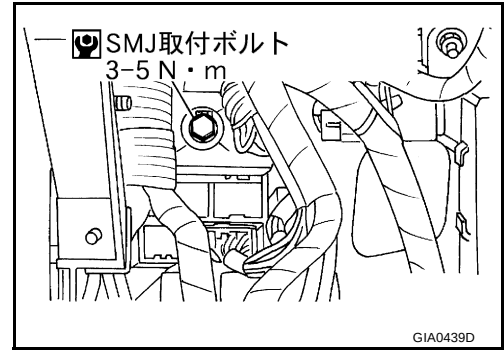


SMJ の取り付け

SMJ はオレンジ色の印が現れるまで取付ボルトを締め付け、その後規定トルクで締め付ける。

締め付トルク : 3 ~ 5 N・m {0.3 ~ 0.5 kg・m }

注意: SMJ が損傷するため、取付ボルトを締め付け過ぎないこと。



テストランプによる点検

JAS00110

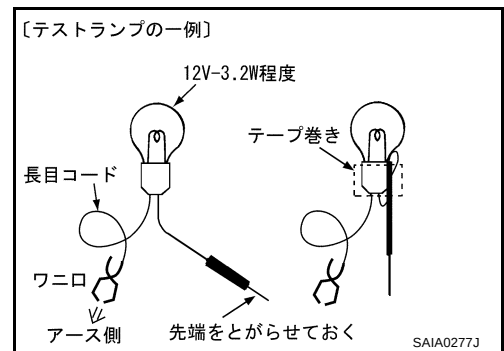
電気系統の故障診断は、通常テスターによる電圧及び抵抗（導通）点検、コネクタ部の断線・端子抜け・かん合状態などの目視点検を行う。

テストランプによる点検は、コントロールユニットの低電圧系（センサー信号線など）・断線寸前の配線・端子の接触不良など、テスター又は目視では発見しにくい部位の探究に効果がある。

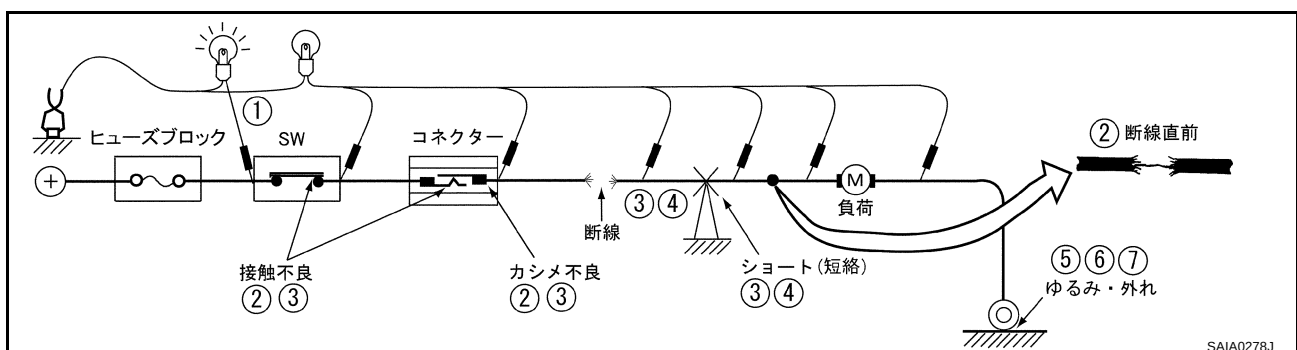
特に、故障診断結果に異常が発見されない場合は、テストランプ点検法を推奨する。

点検要領

- ・テストランプの一端をボディーアースし、他端を診断経路に当てる。
- ・ハーネス及びコネクタに軽い振動や引っ張りを与えた時のランプの点灯状態を見る。（消灯状態、明るさの変化など）



診断部位	テストランプの点灯	判定	図例
電源系、低電圧系 (光量半減)	明るく点灯し続ける	正常 又は 短絡（消灯しない）	1
	光量が少なく点灯する	経路の抵抗大（断線寸前、経路中のスイッチ類の接触抵抗大、経路に抵抗部品あり）	2
	点滅又は光量に変化する	接触不良、断線又はボディーアースに短絡	3
	消灯のまま	断線又は短絡（ボディーアースに落ちている）	4
アース系	明るく点灯し続ける	アース不良（接点の浮き、断線）	5
	光量が少なく点灯する	アース不良（アース経路の抵抗大）	6
	点滅又は変化する	アース不良（アース経路の接触不良）	7
	消灯のまま	正常	8



4WD 車の点検整備上の注意

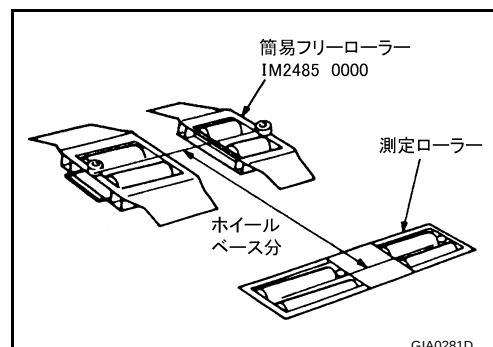
JAS00109

スピードメーター測定要領

スピードメーターの測定要領は以下の 2 方法で行う。

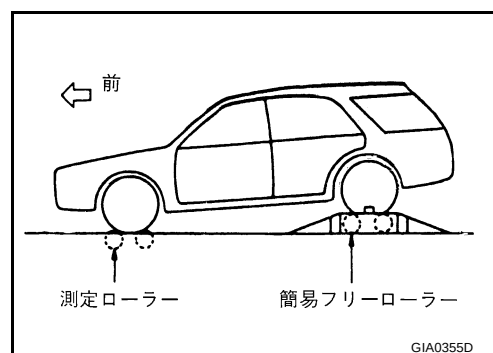
簡易フリーローラーを使用する測定

- 図の通り、簡易フリーローラーを測定ローラー中心からホイールベース分（2,680mm）後にセットする。



- 後輪を簡易ローラーに乗り上げると共に、前輪を測定ローラーに乗り入れる。
- セレクトレバーを 2 レンジにして徐々にスピードを上げる。

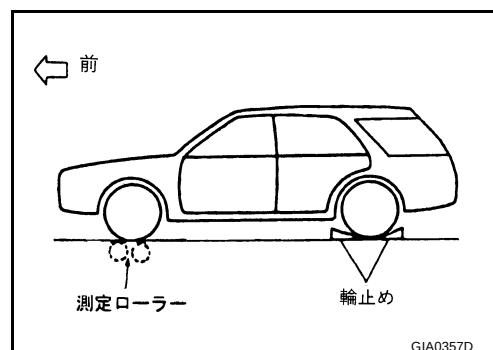
注意： 測定中は急ブレーキ、急加速は行わないこと。



簡易フリーローラーを使用しない測定

- 前輪を測定ローラーに乗り入れ、左右の後輪に輪止めをかける。
- プロペラシャフトを取り外す。
- セレクトレバーを 2 レンジにして徐々にスピードを上げる。

注意： 測定中は急ブレーキ、急加速は行わないこと。



制動力測定要領

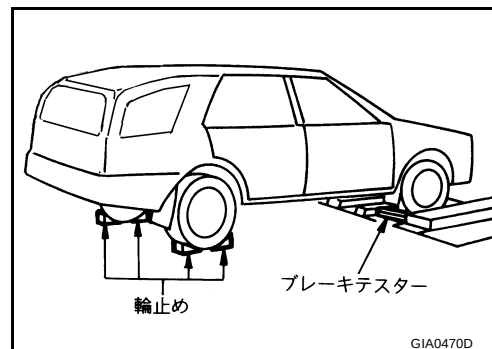
低速型テスターで測定する。

注意： 低速型テスター以外は使用しないこと。

- ブレーキペダルを踏み制動力を測定するときテスター値が OK ゾーンに入るか、又は、OK ランプ点灯と同時にブレーキを戻すこと。
- ブレーキの引き摺り測定時、引き摺り力が軸重の 10% を越える場合は、ジャッキアップして車輪の回転状況を検査し、異常がなければ、引き摺りはセンタービスカスの粘性トルクによるもので、ブレーキの異常ではない。

前輪制動力測定

- 前輪をテスターに乗せる。
- パーキングブレーキレバーを引き、後輪に輪止めをかける。
- セレクトレンジをニュートラル位置にする。
- フットブレーキの制動力を測定する。



後輪制動力測定

- 後輪をテスターに乗せる。
- 前輪に輪止めをかける。
- セレクトレンジをニュートラル位置にする。
- フットブレーキ及びパーキングブレーキの制動力を測定する。

CONSULT - II

JAS0010A

概要

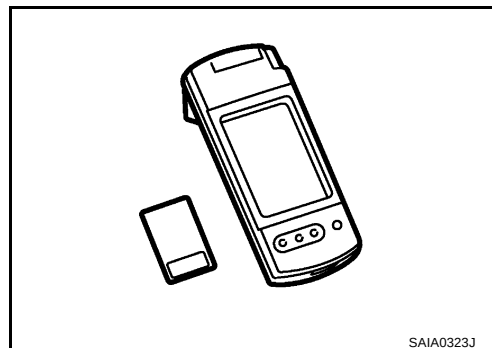
- CONSULT - II は、ハンドヘルドタイプの小型軽量電子システム診断テスターであり、車両側に設けた診断コネクタに接続することにより、車載のコントロールユニットと通信し、各種診断が行える。
- 詳細は別冊「CONSULT - II 取扱説明書（共通）、（追補版 1）、（追補版 2）、（追補版 3）」、「CONSULT - II 取り扱い説明書（ファンクションテスト）」及び「CONSULT - II CONVERTER 取り扱い説明書」を参照
- 本車両の CONSULT - II による診断には、以下の準備が必要である。

1. CONSULT - II（電子システム診断テスター）

：EG1187 0001

2. 診断用プログラムカード

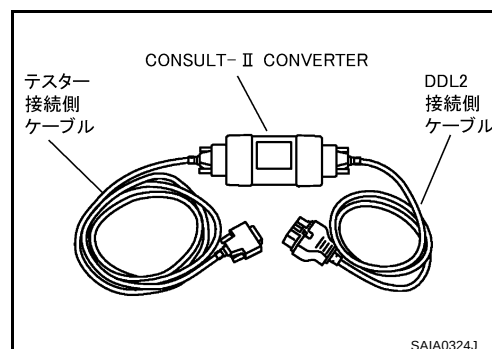
：EG1187 0100（バージョン JJD02A）



3. CONSULT - II CONVERTER

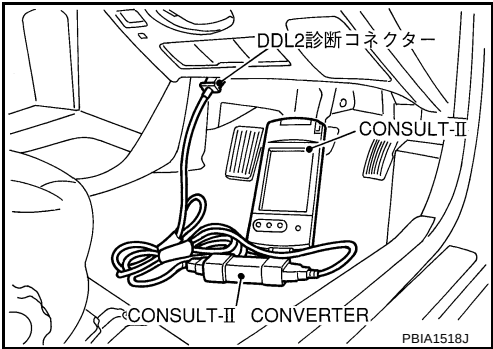
（DDL2 診断コネクタ用変換アダプター）

：EG1190 0000

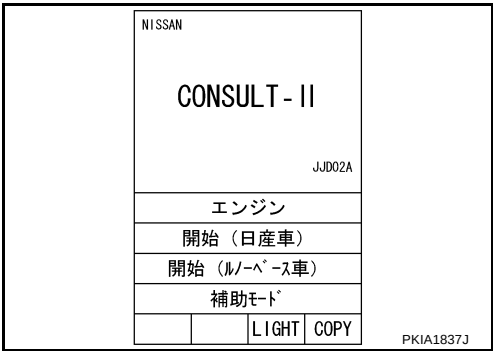


操作要領

- 1. キースイッチを OFF にする。
- 2. 車両側の DDL2 診断コネクタに CONSULT - II CONVERTER 及び CONSULT - II を接続する。



- 3. キースイッチを ON にする。
- 4. “開始（日産車）”を押す。



機能と適用システム

項目	機能
作業サポート	C/U に命令を送って点検、整備に適した状態を設定する。
自己診断結果	C/U の自己診断を受取り、不具合系統、不具合回数を表示する。
自己診断結果 [記憶]	C/U が記憶している診断結果を表示する。
データモニタ	C/U の入出力信号を受取り、表示・記録して不具合原因の発見を容易にする。
データモニタ [参考値]	
アクティブテスト	C/U に指令を送り、出力信号を任意に変化させて出力系の作動点検を行う。
ファンクションテスト	C/U に指令を送り、出力信号を自動的に変化させて出力系の作動点検を行う。
故障履歴表示	過去の「記憶消去」実行前の C/U が記憶していた故障結果を表示する。
C/U 部品番号	C/U の部品番号を表示する。
C/U 識別番号	C/U の識別番号を表示する。

診断システム	エンジン	A/T	CVT	ABS	車間自動制御システム	エアバッグ
作業サポート	○		○		○	
自己診断結果	○	○	○	○	○	○
自己診断結果 [記憶]						○
データモニタ	○	○	○	○	○	
データモニタ [参考]	○					
アクティブテスト	○			○	○	
ファンクションテスト	○					○
故障履歴表示						○
C/U 部品番号	○	○	○	○	○	
C/U 識別番号						○

ジャッキ・リフトアップ支持位置

JAS0010B

注意：・リフトアップは必ず空車状態で行うこと。

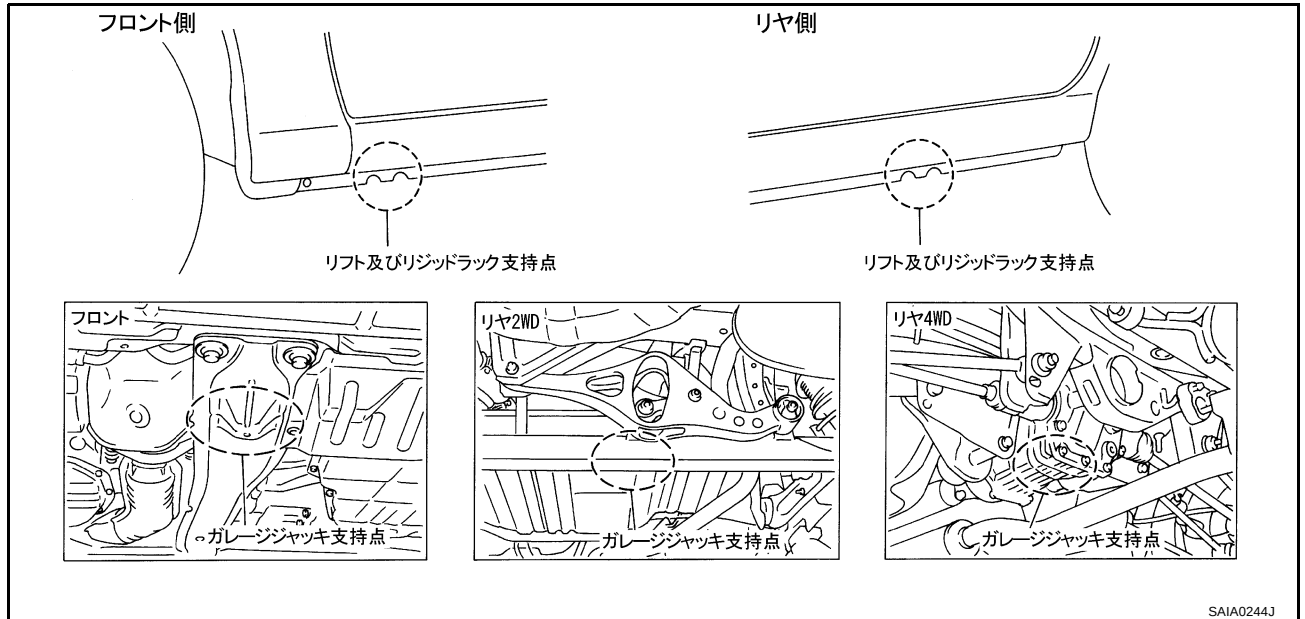
- ・フロント部の主要部品（エンジン、トランスアクスル、サスペンションなど）取り外し時、車両の重心位置が変わるので、リヤ側のガレージジャッキのジャッキアップポイントをミッションジャッキなどで支えること。
- ・リヤ側の主要部品（リヤアクスル、サスペンションなど）取り外し時、車両の重心位置が変わるのでフロント側のガレージジャッキのジャッキアップポイントをミッションジャッキなどで支えること。
- ・パイピング類をつぶしたり、干渉したりしないように注意すること。

2柱リフト、ガレージジャッキ、リジッドラック支持位置

注意：・ガレージジャッキを掛ける場合は平坦な場所で作業すること。

- ・フロント側（リヤ側）をジャッキアップするときは後輪後側（前輪前側）に輪止めをし、リジッドラックで支持したあと後輪（前輪）両側に輪止めをしないこと。
- ・ジャッキで支持しただけで作業をしない。作業をするときはリジッドラックで支持すること。
- ・リジッドラックには必ずアダプター（LM4519-0000）をセットし、車両のジャッキアップポイントに当てがうこと。
- ・アンダーフロア部のサイドメンバー部及びフロア面には、絶対にリジッドラックを掛けないこと。

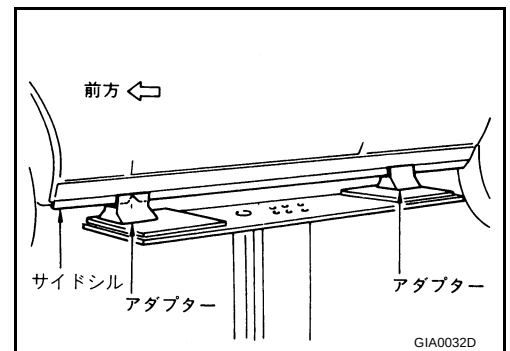
- ・ 2 柱リフトを使用する際は、サイドシル部のジャッキアップポイントにリフトパッドをセットする。



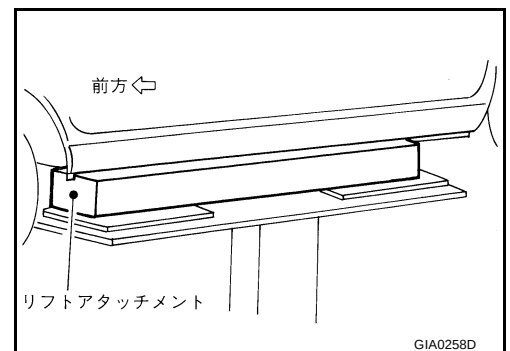
ボードオンリフト支持位置

ボードオンリフト用アダプター (LM0486-0200) を使用の場合は、サイドシル部のジャッキアップポイントにアダプターをセットする。

注意： 前後のジャッキアップポイントにセットできないボードオンリフトの場合は、下記のリフトアタッチメント方式にて行うこと。



- ・ リフトアタッチメント (LM4086-0400) を使用の場合は、中央にサイドシルが当たるようにセットする。



けん引

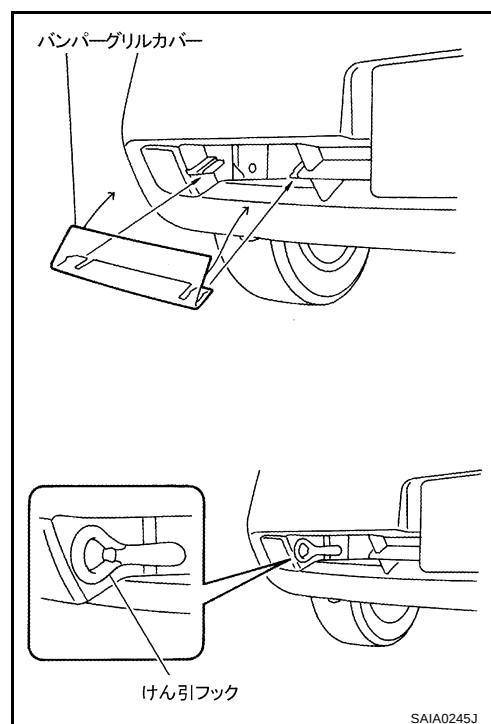
JAS0010C

けん引フック位置

フロント

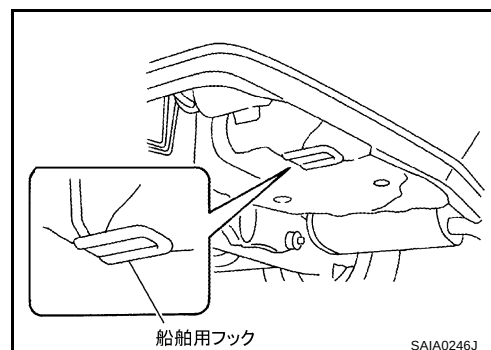
1. バンパーグリルカバーの下側を手前に引きカバーを外す。
2. ねじ込み式けん引フック（車載工具）をホイールナットレンチを用いて車両へ確実に取り付ける。

注意：ロープがバンパーに直接当たると、塗装面に傷を付ける恐れがあるため、ロープは布などで必ず被覆すること。



リヤ

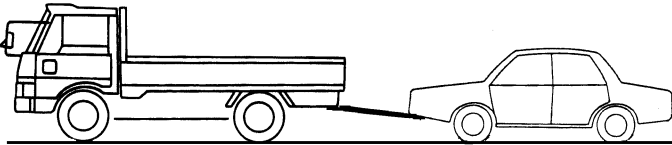
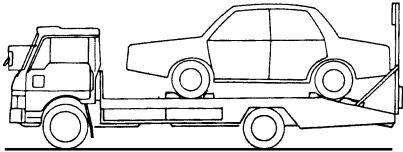
注意：サイドメンバー左後方についているフックは緊締用のため、けん引には使用しない。



けん引方法

- 注意：**
- ・ オートマチックトランスミッション車のけん引は 30km/h 以下の速度で 30km 以内の距離とすること。
 - ・ 4WD 車は、レッカー等による 2 輪状態でのけん引は行わないこと。

一般整備情報

けん引(移動)方法	鍵の有無	けん引(移動)のため
4輪接地 	有り	・パーキングブレーキを解除する。 ・シフト又はセレクトレバーをニュートラルにする。
	無し	×
車 載 	—	・車両を確実に固定する。

GIA0472D

標準ボルト・ナットの締付トルク

JAS001HE

種別	呼び径	ネジの直径 (mm)	ピッチ (mm)	標準締付トルク（潤滑無し）			
				ボルト・ナット		フランジ付ボルト・ナット	
				N・m	kg-m	N・m	kg-m
4T	M6	6.0	1.0	5.5	0.56	7	0.71
	M8	8.0	1.25	13.5	1.4	17	1.7
			1.0	13.5	1.4	17	1.7
	M10	10.0	1.5	28	2.9	35	3.6
			1.25	28	2.9	35	3.6
	M12	12.0	1.75	45	4.6	55	5.6
			1.25	45	4.6	65	6.6
7T	M14	14.0	1.5	80	8.2	100	10
	M6	6.0	1.0	9	0.92	11	1.1
	M8	8.0	1.25	22	2.2	28	2.9
			1.0	22	2.2	28	2.9
	M10	10.0	1.5	45	4.6	55	5.6
			1.25	45	4.6	55	5.6
	M12	12.0	1.75	80	8.2	100	10
			1.25	80	8.2	100	10
9T	M14	14.0	1.5	130	13	170	17
	M6	6.0	1.0	11	1.1	13.5	1.4
	M8	8.0	1.25	28	2.9	35	3.6
			1.0	28	2.9	35	3.6
	M10	10.0	1.5	55	5.6	80	8.2
			1.25	55	5.6	80	8.2
	M12	12.0	1.75	100	10	130	13
			1.25	100	10	130	13
	M14	14.0	1.5	170	17	210	21

- 注意：**
- ・特殊部品、及び座面、ねじ面がアルミニウム又は鋳鉄の場合は除く。
 - ・本表を使用できるボルトはボルト頭部に下記の数字（強度を表す）が浮き出しになっている。
4T・・・・・・4、又は数字なし
7T・・・・・・7
9T・・・・・・9

パワーツール使用に関する注意

JAS0016S

パワーツール（エアーラチェット・インパクトレンチ等）の使用はボルト・ナットを緩める時のみとし、締付け時には使用しないこと。また熱履歴を受ける部位（触媒・マフラー等の排気系部品）・タッピングスクリュー等は緩める時にも破損する可能性があるため、緩める場合もパワーツールを使用しないこと。

車両識別情報

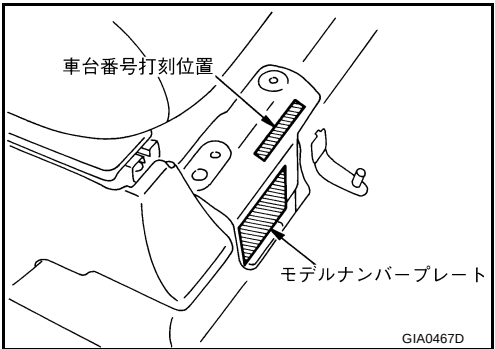
PFP:00010

車台番号打刻位置及びモデルナンバープレートなど

JAS0010E

・ 車台番号の打刻位置は、運転席下クロスメンバー上面である。

車種型式	車台打刻実施始番号
UA - QP12 型車	QP12 - 007001 ~
UA - TP12 型車	TP12 - 030001 ~
UA - TNP12 型車	TNP12 - 002001 ~
TA - RP12 型車	RP12 - 005001 ~
GH - HP12 型車	HP12 - 002001 ~
UA - WTP12 型車	WTP12 - 030001 ~
UA - WTNP12 型車	WTNP12 - 005001 ~
TA - WRP12 型車	WRP12 - 007001 ~
GH - WHP12 型車	WHP12 - 002001 ~



・ モデルナンバープレート

NISSAN MOTOR CO.,LTD.JAPAN

型 式 TYPE TIPO

CHASSIS NO NO DE CHASSIS MODEL MODELO

カラー COLOR TRIM トリム COLOR GUARNICION

エンジン ENGINE

ジーン MOTOR

ミッション TRANS AXLE

アックスル TRANS EJE

工場 PLANT PLANTA

日産自動車株式会社 MADE IN JAPAN

識別

CC

型式

車台番号

車種記号

車体色

内装色

エンジン型式

エンジン排気量

トランスミッション型式

アックスル型式

GIA0018D

